

idea

NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。
ニュースレター アイデア

2015
5月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



～ も く じ ～

- 2 | 二言三言～川崎まちづくり協議会女子会トーク～
- 4 | 団体紹介～鶏舞踊り隊～(一関)
- 5 | 地域紹介～大東町大原 川内自治会～(大東)
- 6 | 企業紹介～道の駅かわさき 川の灯～(川崎)
- 7 | センターの〇〇～新年度スタート！10年の歩み～

フタコト×ミコト

第12回 二言三言 18/123,445

川崎まちづくり協議会女子会トーク

対談者 川崎まちづくり協議会

会員 菅原幸子さん・小山亜希子さん・菅原花さん

聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺 浩樹

まち協が楽しい！

【小野寺】まち協（※川崎まちづくり協議会）ではいつも顔を合わせていますが、3人が揃って話をするとはなかなかない事だと思います。今日はまち協について掘り下げてみます。元々は知らない3人はまち協が出会いの場になりました。

【菅原（幸）】最初は、何をやる所だろうという疑問がありましたが、興味があり自分が最初に関わることの楽しさがあったと思います。行ってみたら会長さんたちばかりで、正直場違いな所に来てしまったと思いました。

【小山】私は途中からの参加です。当時は川崎に引越してきて、仕事も農業だからひきこもり状態で何か交流できることはないか探していました。たまたま手にした川ちゃんアンテナ（※まち協広報紙）を見ると若い人も写っているし、まずは見学に行ってみようと思ったのがきっかけです。まちづくりがしたいというよりは、どんなことを話しているのか気になって参加してみたのが始まりです。見学に行った時、議長さん（※まち協代表）に紹介していただき歓迎された感じがして嬉しかったですね。

【菅原（花）】私は大学3年の時に見学に行ったところ、「話し合いに入る？」と聞かれて話し合いに入っていました。当時は盛岡にいて地元の川崎で何かしたいと思っていて、まち協があることを紹介されたのが始まりです。

【小山】見学に行った時に、若い女の人がいることでハードルが下がりました。会長さんたちばかりだったら保留したと思いますが、幸子さんの存在は参加しやすくなりました。



右から
小山亜希子さん
菅原花さん
菅原幸子さん

【菅原（花）】私が参加した時はビジョン（※川崎まちづくりビジョン）が出来上がっていて、それを見た時は明るい！と思いました。堅苦しくないからワクワクしたし、途中からでも関わりたいという内容だったし、ビジョンは決まっていたけど、具体的なことや将来は柔軟に変えられることが良いと思いました。

【小野寺】確かに、最初は幸子さんだけだったのがじわじわと二人が入ってきて、協議会の雰囲気が柔らかくなってきた記憶が蘇ってきました。まち協は何するところ？の問いには、話し合いの場を合言葉にして、事業をするのは各種団体など。でも、方向性を示すのは、住民みんなです。そのために話し合いの場を創るんだとまち協が発足して、まちづくりビジョンを作ることになりました。

【菅原（幸）】話し合いの中で、「前にもやったことだ。何度も同じことをして意味があるのか」と強く発言する人もいて凍った雰囲気の時もありましたが、市民活動センターが間に入って来ていたので整理されたし、話しやすくなりました。ビジョンができてからは、形だけのものじゃなくて、実現していきたい！と思うようになりました。

【小野寺】目的が見えるまでは大変でしたね。

【小山】夢語りの時から入り、いつかはビジョンを作

り上げるのだという遠い思いでいましたが、文章を作らなければいけないとなった時に現実味を帯びてきました。夢を語ってきたことを大事にしなければいけないと思った分、具体的なものよりは、ぼふつとした感じはありますが、いま思えば、花ちゃんが言うように、ワクワクする計画になったのだろうと思います。これがカチカチのスケジュール感あるものを作るとなると面白味がなかったかもしれません。

活動の様子を発信してさらに広げる

【小野寺】ビジョンができて、フェイスブックをつくったし、具体的な動きをするアクションミーティングをしてきました。フェイスブックを導入したいと言いつ出したのは花ちゃんでした。

【菅原（花）】外への情報発信がないと思っていたのでフェイスブックは欲しいと思っていました。地元になれば回覧板や広報がありますが、若い人は見なかったりするし、時代に合わせてあってもいいかなと思ったのがフェイスブックです。まち協としてのフェイスブックは、人もモノも川崎全部が網羅できるから。

【菅原（幸）】人の紹介をしていこうと言いながら、途中で止まっています。フェイスブックの更新も、うまく情報発信していきたいです。フェイスブックを開設したことで、今までは川の事しか情報発信しなかったのが、まちの事を見るようになりました。

【菅原（花）】私も市役所やまちの掲示板を見るようになりました。

【小山】私もまち協のフェイスブックで情報を得ることも多く、チェックしてないと情報遅れになるような気がします。

【小野寺】さて、今のまち協の論点は、まち協が住民代表組織として成りえていいのかです。そのために何をすべきかを考えた結果、地域の声を集めて、まち協で議論して、アクションにつなげようとまちづくりポストの設置につながっていきました。

【菅原（花）】誰かがポストって発言してくれた時、それだ！と思いました。

【小山】まち協では、マイナスなことを考えないできたのでシビアなことを聞きたい。そのシビアなことをまち協で議論して、そこにまた関心がある人とかが参加してくれるといいと思います。

【菅原（花）】気軽な感じで意見を入れてほしい。まち協に来るまではという人がいるので、時間や気持ち

に壁があるかもしれないから年代問わず気軽に。私は、シビアだけだとへこむから明るい話題もほしいな。

【小山】たしかに開けるたびに、方向性が見えてこないとか、まち協何してるんだとかの意見だとへこむ。

【菅原（幸）】もしかしたらの可能性に期待したいです。もしかしたら若い人が書いてくれるかも。もしかしたらいい意見がくるかも。もしかしたら厳しい意見もくるかも。もしかしたらの可能性に賭けたいと思います。

【菅原（花）】まち協ポストが、川崎のシンボルになればいい。みんなで創るのだという意識が広まればいいと思います。

若い人も参加しやすい環境づくりを

【小野寺】今や地域づくりの話をするとう若い人の参加という意見も多くありますが、若い人たちからしたらどう考えますか？

【小山】若い人たちにやってもらいたいという気持ちは分かります。しかし、みんなで楽しいことをできるような環境を作ることを大事にしたいと思います。実際にまち協は、面白い人が多いから混ざりたくなるし、いつも楽しいし、刺激になるし、勉強にもなります。

【菅原（幸）】いい人ばかりで、いつも人に恵まれています。私が若者という意識はないし、先輩方の方が若い(笑)同級生を誘っても参加しないから、たぶん私が変わっているんだと思います。強制するのではなく、話し合いをするだけという場であること。入ったからには、お前たちがやれっというような環境では誰も行きたくないと思います。

【菅原（花）】若い人も興味を持っていないわけではないはずで。以前に若い人向けにアンケートをとった時、シビアに考えて意見してくれたから考えていないわけではないのだと。まちづくり協議会となると堅そうなイメージもあるので、ポストのような存在が必要なのだと思います。まち協に来るまではという人がいるので、時間や気持ちに壁があるかもしれないからポストを使って参加するような仕組みも必要だと思います。

基本情報

【川崎まちづくり協議会】

事務局 一関市川崎市民センター内

〒029-0202 一関市川崎町薄衣字諏訪前 7-1

TEL : 0191-43-3112 FAX : 0191-43-3273

鶏舞踊り隊

団体 紹介



鶏舞踊り隊の皆さん

～基本情報～

- ◆会長：齊藤 裕美（ひろみ）さん
- ◆連絡先：〒021-0011
一関市山目町2丁目1-19
- ◆電話：0191-21-2152（中里市民センター）

『幸せ体質』に包まれた伝統継承のモデルケース

とある3月の金曜日夜8時半。中里公民館のホールには、師匠達の熱心な指導を受け真剣なまなざしで舞う20人ほどの姿がありました。結成後の濃密な1年間を駆け抜けて来たこの団体、その名は…「鶏舞踊り隊」

中学校閉校と新たな伝統の継承

中里地区には古くから愛宕神社等で上演してきた沢田神楽があります（継承者の減少等により現在は活動休止中）。昭和50年代からは中里中学校への鶏舞指導を通じ伝統を継承してきましたが、同校は山目中学校との統合に伴い平成26年度をもって閉校する事が決定。伝承の舞台は中里小学校に移る事になりました。

とは言えノウハウを持たない小学校だけでの継承には不安もあり、地域も小学校と一緒に鶏舞を伝承する事を期待する声が学校や地域から上がり始めました。これを受けて中里公民館は、平成26年2月から中里中学校鶏舞指導者の三浦博さんを迎え鶏舞講習会を開催。多い時には20人を超える参加者が集まったそうです。

その講習会が終了する時「もっと踊りたい」という気持ちから、他の参加者に「みんなでこれからも一緒に踊りませんか？」と呼びかけたのが代表の齊藤裕美さん。同じような気持ちの人達が集まり「鶏舞踊り隊」が結成されることになったのです。

ゆるく、楽しく、それぞれの想い

「親子・兄弟のコミュニケーションに繋がる。子供の練習過程を見続けて迎える感動の舞台」「子供の追っかけとは違い、親子でステージに立てるのが新鮮。大変な事もあるが幸せな時間」「純粋に自分が踊りたいという気持ち」そう話すメンバーの皆さん。親子で、ママ友同士で、かつての同級生同士でと、参加の仕方が様々なように踊り隊への想いもまたそれぞれ。ただ共通しているのは「や

らされる」ではなく「やりたい」という気持ちで関わりたいという想い。齊藤代表も「ここには相手を尊重して感謝するという『幸せ体質』がある。踊りたいという気持ちが揃っているから居心地も良い。それぞれ忙しく活動日にみんなが揃う事は難しいが、ゆるく楽しく繋がっていければ」とメンバーへの想いを語ります。

地域を学び地域と繋がる そして

「芸事は覚えきったという事がない」「教えるのも大切な勉強」と口を揃える師匠達。踊り隊は師匠に教わる一方でしばしば小学校で児童の指導もしますが、教えながら気づかされる事も多いそうです。鶏かぶとの手づくりも始めており、地道な細かい作業に励むメンバーの姿を見かける事も。また、鶏舞の歴史や愛宕神社についての研修や、悪魔払いや餅文化等の体験を通じて地域行事・文化を学ぶ事が地域と繋がるという結果も生んでいます。

さらに鶏舞踊り隊は中里まちづくり協議会にも名を連ねており「協議会は踊り隊を支援し、踊り隊は鶏舞をツールとして中里地域を元気にし、まちづくりに繋げる」というWin-Winの関係性が期待されています。今後も踊り手はもちろん、装束や鶏かぶと作り、運営支援、観客動員等様々な形で踊り隊を応援してくれる人達（言わば「鶏舞踊り隊を『応援し隊』」や、中里小PTAに設置された鶏舞活動支援部も含め色々な人と関わり、みんなで一緒に成長していけたら。そんな将来像を齊藤代表は見据えています。

5年後、世界中の目が注がれる東京の舞台に、鶏舞で中里を世界に発信している団体の姿があるかもしれません。その名は…



手づくりされた鶏かぶと

地域 紹介



復興支援ボランティアに参加した自治会員と本多自治会長（右下）

～基本情報～

- ◆自治会長：本多 且司さん（1期2年目）
- ◆川内自治会（59世帯165名）は県立大東病院や大東支所、大原市民センターなど地域の主施設が並ぶ地区です。地区内住民有志で結成した「春日長寿そばの会」は、地域の活動に潤いを与えています。

合い言葉は「みんなでやろうやあ」

一人一役みんなが地域の主役です

平成2年に建てられた川内自治会館の窓から「さあどうぞ」と声をかけてくださったのは、1期2年目を迎える同自治会長の本多さんです。自治会館に上がると、たくさんの可愛らしくそれでいてしっかりとした椅子が目につきました。「これはね、地域の方々から使わなくなった家庭用の椅子を譲ってもらって、この低い会議用テーブルの高さに合わせて加工したものだよ」と答え、「年々自治会員も年をとってきてね。『やっぱり椅子が欲しいね』なんて聞こえてきたものだからね。地域には加工が得意な人もいるし。ほら、こうやって椅子の脚を強化しているんだよ」と続けます。

大工仕事の得意な人、写真を撮るのが得意な人、文章を書くのがうまい人など、人にはそれぞれの特技があります。その力を地域で発揮してもらえよう、そして一人ひとりが地域の主役になってもらえるようにと地域の声を聞きながら役割の分担を行っているのがこの自治会の特徴です。「自治会というのは自治会長だけの組織ではありません。自治会員（住民）がいて成り立つわけです。みんなが無理なく参加しやすい方法を探ることが私の務めだと感じています」と本多さん。

守るべきもの 支えるべきもの

平成24年に自主防災会「災害緊急時見廻隊」を編成した川内自治会。少子高齢化が進む、高齢者独居世帯や空き家の増加など現状課題も含め、「では、いざというときどう対応するか？」というところに視点をあて、自治会各班の協力のもとで、「日中に支援が必要な方・夜間に支援が必要な方・昼夜とも支援が必要な方」を運営委員会が調査し、一覧にまとめ各戸に配布しました。「この一覧はね、家の中の一番見やすいところに貼

ってもらっています。なにかあっても、なくてもお互いが支え合い、日頃からのコミュニケーションを大事にしています」と語る本多さん。こういった支え合いの心を大切にしているのは、ある一つの継続された活動の中から「住民自らが考える時期があったから」と振り返ります。

平成23年の東日本大震災。一関市大東町の隣町である陸前高田市は大きな被害を受け、同自治会は震災直後からがれき撤去等のボランティア活動に参加してきました。現在は復興支援という形で年3回（通算13回）のボランティア活動を行っています。また、震災で影響のあった県立大東病院再開後は「地元自治会として何か支援を」と病院側と協議し、医師や医療従事者がよりよい環境の中で業務に従事してもらえようとして清水田公舎（院長公舎）を中心とした環境整備を実施しています。「以前は自治会活動というと、どこか出役的・義務的という感が少なからずありましたからね」と振り返り、「現在では家族みんなで参加してくれるところもあるんですよ」と嬉しそうに語ってくれました。

集える雰囲気づくり

「もう少しで自治会の総会なんですよ。私たちの自治会では、総会後にお花見を兼ねているので他の自治会よりも少し遅めに総会するんです」と語る本多さん。「多くの自治会員が総会に関心を持って参加してもらえるように、総会の資料にはお楽しみ抽選番号をふってあるんです」と続けます。

「さあ、今年もみんなでやろうやあ」と声をかけながら、たくさんの笑顔が集える自治会を今後も目指しています。



自治会館前の桜は少し色が付きはじめてきたようです

企業 紹介



駅長
千葉 勝雄さん

～基本情報～

- ◆ 駅 長：千葉 勝雄 さん
- ◆ 連絡先：〒029-0202
一関市川崎町薄衣字法道地 42 番地 3
- ◆ 電 話：0191-36-5170
- ◆ F A X：0191-36-5180
- ◆ U R L：http://www.kawanoakari.com/

独自の資金制度で「つくる喜び！売る喜び！」を育む

「やってみっぺす！」の声から誕生

一関市川崎町に新名所「道の駅 かわさき」がオープンしたのは平成 15 年 4 月（当時は川崎村）のこと。

一関市と宮城県気仙沼市を結ぶ国道 284 号線沿いで、農産物の直売所や郷土加工品販売を中心に、広いトイレや休憩施設も併設され、市内はもとより県内外からも人気がある道の駅です。

もともとは、地元の生活改善グループが中心となって農産物を販売した「ふれあい市」が始まりとなっており、平成 9 年には道の駅・農林産物直売施設の開設に向けて、地元住民 30 名ほどが「産直試験販売グループ」を立ち上げました。「当時は、『産直ならまだしも、こんな何もないところに年中無休の道の駅なんて、人は立ち寄りたくないじゃないか？』という声も多く、国道の通過点にしか過ぎなかったこの地域に大型の道の駅ができることは住民にとって不安も大きかったようです」と語るのは駅長の千葉さん。地元農家の方々の機運が高まりはじめたのは、それから 5 年以上経った頃のこと。「地域を盛り上げるためにも、やってみっぺす！」と平成 13 年、現在の運営主体となる「ドンと市かわさき協同組合」を設立。現在では市内生産者 240 名、従業員 24 名と地域雇用の場であり、県内トップクラスの道の駅となりました。

課題をチャンスに「チャレンジ資金制度」

「産直の大きな課題は冬期間の生産品不足」と語る千葉さん。「少しでも地元生産者が笑顔で農業に良い未来が築けるよう、冬期間の安定した生産のため独自の取り組みで意識向上を図っています」と続けます。

同組合では産直の課題でもある冬期商品不足解消の改善も含めた新しい活用法を創出する取り組みとして、

組合独自予算の補助金「チャレンジ資金制度」を導入しています。

この補助金は、新しい品種や加工品など開発に関して組合員グループや班に先行投資を行うもので、「これまで 10 数件のグループや班で、アイスブランド・サクランボ、川崎特産のツルクビ芋の子で作ったカマボコやシュウマイなど新たな作付けや商品が開発され、川崎町に来ていただいたお客様が一年中充実した商品を手にしていただけるように日々努力しています」と千葉さん。産直施設を運営するうえで、「魅力ある商品をそろえていること」「売れる時間帯に常に商品があること」「良い商品を廉価で提供する事」を三原則に、運営を行っている同組合は、生産者・従業員一丸となって地域の魅力を発信すると共に、地域農業の活性を支援し、「また立ち寄りたくなる温かみのある道の駅」をめざしているのです。

いわての子育て応援します

岩手県では、少子化対策の取り組みとして、子育て家庭を社会全体で応援する「i・ファミリー・サービス事業」を実施しています。道の駅 かわさきは、その事業に協賛した、小さなお子様連れでも安心してご利用いただける「いわて子育て応援の店」です。おむつ替えコーナーの設置の他、ベビーカーのまま入店することができ、ミルク用のお湯も提供してくれるとのこと。地域に根ざす企業は、子育てにも優しい企業です。



外見にもこだわりをもった造りとなっています。この時期ジェラートがおすすめです。



センターの〇〇

—新年度スタート！ 10年の歩み—

市民が主体となった地域づくりを積極的に進めるため、市民活動の活性化と多様な参加、連携の他、団体の活動がしやすい地域基盤づくりを促進することを目的とし、一関市大町の事業所と千厩町千厩のせんまやサテライト2か所を拠点として、支援を行ってきた「いちのせき市民活動センター」は今年で10周年を迎えます。ここで、これまでの歩みを振り返ってご紹介いたします。

平成17年 7月 誕生

県委託



- 【センターの取り組み】
- NPO 初級講座、マネジメント講座、企画実施
 - いちのせきNPO活動促進会議インナーチ事務局
 - いちのせき市民活動便利帳の発行

県南広域振興局一関総合支局が3カ年の「きらめきサポート21モデル事業」として「きらめきサポートステーション一関」を設立。NPO初級講座や市民活動体験講座の開講、また、会議で利用できるフリーラウンジや交流広場を提供してきました。

平成20年 4月 新名称

市委託



- 【センターの取り組み】
- 広域的な情報・人材交流ネットワークの拠点づくり
 - 市民と市民活動団体、企業、行政の協働の橋渡し
 - 市民活動に関する情報の提供等

市民活動支援事業を一関市から事業委託。名称を「いちのせき市民活動センター」と新たに、NPO支援から地域コミュニティ、行政、企業の地域を支える4主体を支援するようにミッションを拡充。この年、一関市が協働のまちづくり宣言をしました。

平成23年 7月 サテライト誕生

千厩



- 【センターの取り組み】
- 法人や任意団体設立に関する相談支援
 - 組織、団体の経営や運営に関わる相談、経常的な運営に関する相談支援
 - 事業企画・運営・実施に関する相談支援
 - センターが持っている情報の提供

同年9月に藤沢町が編入となり、一関市は8つの地域合併でさらに大きくなりました。そこで、地域とのつながりをもっと柔軟にするため、いろいろな思いが積み重なり、一関市千厩町にサテライト開所。市民が主体となった地域づくりを積極的に進めるための支援に従事しています。

平成25年 4月 新たな事務所

移転



- 【センターの取り組み】
- 話し合いのためのファシリテーターの派遣
 - 地域づくり計画策定支援
 - 協働に関する講演及び情報提供

平成25年4月、「新鮮館おおまち」として1階のみ地域食材を取り扱う産直として運営していた旧ダイエーは、市街地活性化センター「なのはなプラザ」としてグランドオープン。私たちの事務所は1階から4階の広い事務所へと移り、心も一新業務に励んでいます。

Re:Start

当センター開設より10年を迎えます。たくさんの方々に支えられ、ここまで成長してこれこれことができましたことに心より感謝申し上げます。私たちが中間支援センターをはじめた10年前は、NPOは馴染みがなく、地域づくりは、一部の人たちが頑張っているという時代でした。しかし、10年経ったいま、地域づくりに関心を持つ方が増え、市民がアイデアを出せる時代になり、市民主体のまちに近づいてきていることを実感しております。引き続き個人の尊厳と地域力の向上を合言葉に、日々精進して参ります。

いちのせき市民活動センター長 小野寺 浩樹

おしらせ

一関

第47回子どもの森

一関世代にかけの橋では、昔遊びや巨大迷路など子どもたちが楽しく遊び交流できる第47回子どもの森を開催します。同時に、遊具の準備や子どもの遊び相手をするボランティア(※5/1までに申し込みが必要です)も募集しています。

【日時】 平成27年5月10日(日)9時30分~15時
【場所】 山目市民センター(旧山目公民館)
【料金】 無料
【問合せ】 山目市民センター(旧山目公民館)
【電話】 0191-21-2104

室根

春の山野草展

桜草、クマガイソウの群舞など春を彩る山野草が展示されます。また、玄関ロビーの「望郷の群舞VI」と題し、庭園をイメージした大型ディスプレイは必見です。※先着100名様に、桜草、ニホンタンポポなどをプレゼントします。

【日時】 平成27年5月9日(土)10時~17時
 平成27年5月10日(日)9時~16時
【場所】 室根市民センター(旧室根公民館)
【料金】 無料
【問合せ】 室根市民センター(旧室根公民館)
【電話】 0191-64-2347(室根市民センター)

一関

ひこばえを守り育て隊 農園のサポーター募集

ひこばえを守り育て隊では、一関市赤荻にある畑にて、一緒に農園を耕してくれるサポーターを募集しています。

【日時】 都合の良い日、いつでも
【場所】 一関市赤荻地内の農園
【報酬】 なし。お礼として季節の野菜
【持ち物】 農具
【問合せ】 ひこばえを守り育て隊
【電話】 0191-21-3086(葉澤)
【内容】 野菜や花のタネまき等

花泉

花と泉の公園 ぼたんしゃくやく祭り

開園20周年を迎えた花と泉の公園では、ぼたんしゃくやくが開花期を迎える5月上旬から6月上旬にぼたんしゃくやく祭りを開催します。園内には320種4,000本のぼたんと40種3,000株のしゃくやくが植栽されています。期間中は「山野草展」「ランチバイキング」も行われます。

【期間】 平成27年5月9日(土)~6月7日(日)9時~17時 期間中無休
【場所】 花と泉の公園(一関市花泉町老松字下宮沢159-1)
【料金】 ぼたん園 大人500円・小中学生250円
【問合せ】 花泉観光開発株式会社
【電話】 0191-82-4066

川崎

アート創作交流

NPO法人アートで明るく生きるかわさきでは、障がいのある方の仲間づくりや地域住民との交流を目的に、アート創作交流「てんとう虫教室」を月2回程度行います。絵画・遊書、調理実習で楽しい時間を過ごしましょう。

【日時】 平成27年5月12日(火)・26日(火)10時~15時
【場所】 川崎市民センター(旧川崎公民館)
【料金】 参加料無料(お茶代は実費負担)
【問合せ】 NPO法人アートで明るく生きるかわさき
【電話】 0191-43-4733

大東

こんにちは、大東町の土偶です

大東町の縄文時代の遺跡より出土した土偶と発掘資料による特別展です。不思議な形の土偶を、時代ごとに展示し、形式の編年と造形の面白さを紹介します。計117点の展示物をぜひご覧ください。

【期間】 平成27年4月25日(土)~6月7日(日)
【場所】 芦東山記念館
【料金】 一般/300円 高校生/200円等
【問合せ】 芦東山記念館
【電話】 0191-75-3861

一関

菜花堂青空販売

株式会社菜花堂では、アウトレットの各種洋菓子を特別価格で提供する青空販売を毎月1回開催しています。アウトレット品のため、どんな商品が並ぶかは当日のお楽しみ。いずれも数量限定です。(冬期間除く)。

【日時】 平成27年5月23日(土)10時~15時
【場所】 一関市萩荘(国道4号線沿い)
 菜花堂前特設屋外テント
【問合せ】 株式会社菜花堂
【電話】 0191-23-3105

千厩

2015 せんまや 気仙沼街道まつり

『気仙沼クラシックカー&バイクミーティング』『千厩なつかし昭和展』の他、昭和駄菓子店や気仙沼復興応援市、屋台村、まちなか音楽隊、動くクルマ展など子供から大人まで楽しめるイベントが繰り広げられます。

【日時】 平成27年5月17日(日)
 10時~15時
【場所】 千厩町四日町・東栄町商店街
【問合せ】 一関市役所千厩支所建設水道課
【電話】 0191-53-3970

藤沢

藤沢図書館企画展

「石井桃子さんの本が好き！」

「クマのプーさん」「うさこちゃん」等の翻訳、「ノンちゃん雲にのる」等の児童文学作品で知られる石井桃子さんの作品展示、貸出、絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊び等を行います。(保護者同伴可)

【期間】 平成27年4月24日(金)~5月27日(水)
 平日:10時~19時
 土日祝日:10時00分~18時00分
 (定期休館日、資料整理休館日を除く)
【場所】 藤沢図書館
【料金】 無料
【問合せ】 0191-63-5088(藤沢図書館)

今月の表紙



ケルンの下の花壇は藤沢町の地図になっています。

市役所藤沢支所の道路向かいにある「希望のケルン」です。平成2年にふるさとづくりをさらに発展させる意志を表明するため、当時の1万2千の町民と43の自治会の石(意志)を持ち寄り造られました。

Q&A あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q 「NPO」「市民活動団体」「民間非営利組織」は同じ？

A NPO、市民活動団体、民間非営利組織、これらはすべて同じ組織のことを指しています。市民による、地域の課題を解決する活動をする組織のことを指します。さらに詳しく見ていくと、市民が、地域にある様々な課題を何とかするため、よりよくするために、自発的、組織的、継続的に、住んでいる地域で、団体の会員みんなのできる時間に、不特定多数の利益の増進に寄与する活動をする組織のことです。

